

# 臨床研究「泌尿器がんにおける腫瘍局所の脂質構成プロファイリングに関する後ろ向き観察研究」 について

筑波大学附属病院腎泌尿器外科では、標題の観察研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

## ① 研究の目的

生体内には多くの種類の脂質が存在し、その多様性が様々な生命現象や機能制御に関わっていることが知られています。最近の研究では、がん細胞が脂質代謝を介してがん免疫の機能制御を行っていることが明らかとなり、こうした脂質代謝経路が治療標的として注目されるようになってきています。

組織中の脂質のプロファイルを探索する技術として質量分析法がありますが、中でも近年、従来の質量分析装置に光学顕微鏡を備えたイメージング質量顕微鏡という新しいモダリティが登場し発展をみせています。これは組織中の特定の脂質分布を同定・可視化できるもので、実際に正常組織やがん組織における脂質のプロファイルの差異をとらえることができます。

乳がんや甲状腺がんなどにおいては、イメージング質量顕微鏡を用いた解析が行われておりますが、泌尿器がんの領域ではそういった解析が行われていないのが現状です。そこで、本研究では皆様から頂いた腫瘍組織を用いて、脂質構成プロファイルを明らかにすることで、泌尿器がんの新たな治療標的を見出すことを目的とします。

## ② 研究対象者

当院に通院または入院中の患者さんで、以下の基準をすべて満たす方を対象とします。

- (1) 同意取得時において年齢が18歳以上の方
- (2) 泌尿器がんに対する手術が行われた患者さん

## ③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2028年3月31日まで

## ④ 研究の方法

本研究の対象となる患者さんで、研究へのご協力に同意いただいた方から、以下の「臨床情報」と「臨床検体」を利用させていただきます。

### (1) 臨床情報

- ・ 診断：年齢、性別、ECOG パフォーマンスステータス (PS)、病期 (TNM 分類、転移がある場合にはその部位)、身体検査、尿検査、血液検査、画像検査、病理組織検査など
- ・ 治療：手術療法、薬物療法、放射線治療、緩和治療などに関して、その内容、治療開始日、評価病変ごとの治療転帰・成績、有害事象、副作用など
- ・ 転帰：最終転帰確認日、その時点における状態（がん無し生存、がん有り生存、疾患特異的死亡、他因死など）など

### (2) 臨床検体

- ・ 腫瘍検体：手術で採取した腫瘍組織の余剰検体

⑤ 試料・情報の項目

臨床検体、検査データ、診療記録等

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学医学医療系腎泌尿器外科 教授 西山 博之

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL : 029-853-3223

⑦ 研究機関名および研究責任者名

国立研究開発法人国立環境研究所 環境リスク・健康領域 エコチル調査コアセンター次長曝露  
動態研究室室長 中山 祥嗣

〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16 番地 2

TEL : 029-850-2786

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院 : 〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名 : 腎泌尿器外科 担当 濱田 和希

電話 029-853-3223 (平日 9~17 時)

FAX 029-853-3203